

令和4年度  
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	04	01	07	144340	浄化槽事業費	
総合計画	分野	02 暮らし		政策	02 生活基盤の充実	
	施策	06 汚水の適切な処理				
目的	市民の快適で衛生的な生活環境と公衆衛生を確保し、併せて公共用水域の水質を保全するために、浄化槽処理区域での浄化槽整備を推進する。					
対象	住宅散在地域（公共下水道、農業集落排水による集合処理区域外）					
意図	水洗化向上のため、浄化槽整備を普及促進する。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○浄化槽設置整備事業補助金（62基） 57,910千円</li> <li>○浄化槽維持管理費補助金 2,800千円</li> <li>○浄化槽撤去費補助金 0千円</li> <li>○私設汚水管設置費補助金 936千円</li> <li>○排水設備設置促進事業補助金 1,700千円</li> <li>○水洗便所等改造資金融資利子補給補助金 81千円</li> <li>○岩手県浄化槽推進協議会負担金 24千円</li> <li>○全国浄化槽推進市長村協議会負担金 24千円</li> </ul>					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛	
				○補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	浄化槽設置に要する費用への補助（個人設置型）	件	計画	82.00	82.00	
			実績	62.00	62.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	浄化槽普及率	%	目標	12.00	12.00	
			実績	11.00	11.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の実績で浄化槽62基を設置しているが、浄化槽普及率については人口減少したことで目標を若干下回ったものの、概ね目標どおりとなった。</li> </ul>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共下水道や農業集落排水による集合処理区域以外の市域において公共用水域の水質汚濁を防止するため、税金を投入して水洗化を普及する必要がある。</li> </ul>
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合処理区域以外の市域の水洗化率を向上させる手法としては、現時点でより適切な手法が見当たらない。</li> </ul>
	向上余地がある	
	○ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の補助事業に市単独の上乗せ補助を行うことで、従前の浄化槽整備（市設置型）における個人負担と同様の負担割合を実現しており、成果を低下させずに事業費や人件費を削減する余地は見当たらない。</li> </ul>
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合処理区域以外の市域において浄化槽を設置する者であれば受益の機会が均等であり、従前の浄化槽整備（市設置型）における受益者負担と同様の負担割合であり、どちらも適正と考える。</li> </ul>
	受益と負担の適正化余地	
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	費用負担の見直し余地がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化槽設置は、公共下水道や農業集落排水による集合処理方式に比べて管路工事やポンプ施設が不要なため初期投資が経済的であり、かつ、工期が短く即効性が高いことから、普及率（水洗化率）の向上に一定程度の成果があった。</li> </ul>
	○ 適正である	
	今年度の振り返り	
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度創設から4年経過しているが、毎年度一定数の制度利用実績があり、今後も制度を継続して普及率（水洗化率）の向上に努める。</li> </ul>	

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	04	02	04	144470	し尿処理事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	06	汚水の適切な処理			
目的	し尿の適切な処理のため、収集運搬や広域での処理を行う。					
対象	し尿汲み取り世帯					
意図	し尿を適正に処理する。					
事業概要	○し尿処理 118,223千円 し尿汲み取り業務及び汲み取り手数料の収納事務の委託 ○北上地区広域行政組合分賦金 183,806千円 北上地区広域行政組合のし尿処理に係る分賦金					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	
					○委託	
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	汲み取り量	kl	計画	14,037.00	13,269.00	
			実績	17,260.00	16,601.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
し尿の汲み取りは、衛生環境の維持のため各家庭等からの依頼に基づいて行うものであり、事業効果を数値で表すことは困難であるため、成果指標を設定していない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	一般廃棄物の収集、運搬及び処分は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により市の責務とされており、廃棄物を適正に処理することにより生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的としているため妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	下水道等の普及により、し尿処理量は減少傾向にある。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	し尿汲み取り量が減少傾向にあり、汲み取り業務委託料についても今後減少が見込まれる。
	○ 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	受益者負担があることから適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	○ 適正である	
総合評価	今年度の振り返り	し尿の適正な収集運搬・処理により、生活環境の保全と公衆衛生環境の向上が図られた。
	次年度に向けて	し尿処理事業は生活環境の保全及び公衆衛生の向上のため必要不可欠なものであり、今後も適正に事業を実施する必要がある。

令和 4 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
下水道	01	01	01		公共下水道事業(4条)	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-2	生活基盤の充実			
	施策	6	汚水の適切な処理			
目的	公共下水道施設の維持及び長寿命化					
対象	事業計画区域内の住民					
意図	常に、下水道を利用できるようにする					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<ul style="list-style-type: none"> <li>浄化センター長寿命化対策工事</li> <li>浄化センター積算・現場管理等業務委託</li> <li>ストックマネジメント計画を策定し、計画に沿った長寿命化対策の実施</li> <li>管渠整備の概成</li> </ul>						
市民参画の有無 [ 対象外 ]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	R03	R04	R05
①	長寿命化対策工事等	件	計画	—	5	
			実績	—	5	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	R03	R04	R05
①	ストックマネジメント計画進捗率【第2期】R4～R8	%	目標	—	11	
			実績	—	11	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
緊急性のあるものは、応急措置及び補修等に対応し、目標を達成した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>下水道法第3条において、公共下水道の設置、改築、修繕、維持その他の管理は市町村が行うものとされている。</li> </ul>
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次花巻市一般廃棄物(し尿)処理基本計画の策定に合わせて公共下水道事業の計画区域を縮小し、管渠整備は概ね完成したため、現時点で成果の向上余地は見当たらない。</li> </ul>
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	<input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>長寿命化や更新工事などは、更新のタイミングや工法の見直しなどにより事業費の削減余地はある。</li> </ul>
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者の範囲が明確であり、従来の汲み取り式に比べて生活環境が改善され、快適性が著しく向上し土地の資産価値が増加することから、受益者負担は適正である。</li> </ul>
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共下水道管渠整備が概成(概ね完成)となっている。</li> <li>供用開始から一定期間を経過しており、今後は浄化センターの長寿命化工事及びマンホールポンプ更新等を継続的に実施していく。</li> <li>緊急性のあるものは、応急措置及び補修等に対応し目標を達成したが、老朽化に伴い施設全般で補修修繕等の必要な箇所が散見されており、今後も成果指標を維持するため、施設の長寿命化を図る必要がある。</li> </ul>		

令和 4 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
下水道	02	01	01		農業集落排水事業(4条)
総合計画	分野	暮らし			
	政策	2-2	生活基盤の充実		
	施策	6	汚水の適切な処理		
目的	農業集落排水施設の維持及び強化				
対象	事業計画区域内の住民				
意図	常に、下水道を利用できるようにする				
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計等 汚水処理施設及び管路施設の実施設計作成等</li> <li>機能強化工事 汚水処理施設及び管路施設の更新・改築等工事</li> </ul>					
市民参画の有無 [ 対象外 ]					
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会	
		後援・協賛		補助・助成	
		事業協力・協定		委託	
活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	R03	R04	R05
① 調査計画実施地区	地区	計画	5	3	/
		実績	5	3	
② 機能強化工事	地区	計画	4	1	/
		実績	4	1	
③		計画			/
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	R03	R04	R05
① 施設稼働率	%	目標	100	100	/
		実績	100	100	
②		目標			/
		実績			
③		目標			/
		実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり	
			<input type="radio"/>	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
緊急性のあるものは、応急措置及び補修等に対応し、目標を達成した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・農業用排水（公共用水域）の水質保全のため、税金を投入して生活排水を浄化する必要がある。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・現在の施設稼働率は100%であり向上の余地はない。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	<input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・今後は施設の長寿命化に向けてコスト縮減等に取り組む。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・受益者の範囲が明確である。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急性のあるものは、応急措置及び補修等に対応し目標を達成したが、老朽化に伴い施設全般で補修修繕等の必要な箇所が散見されている。</li> <li>今後も成果指標を維持するため、施設の長寿命化を図る必要がある。</li> </ul>		